

1 単元名

〇〇の〇〇を説明できる (使用教科書会社 大日本書院「中学生の歴史」)

2 単元について

AL-GAP 型学習指導案様式

(1) 生徒観

① 全国 (県) 学力・学習状況調査の結果により

H29年度全国学力・学習状況調査, 及びH30年度佐賀県学力調査の分析からは (学力調査等の分析からは), 知識理解に関する内容は県平均を上回っているが, 複数の資料から自分の考えをふまえて略述する問題や, 基本・基本的な学習内容の知識を生かして回答しなければならない問題は約〇割の生徒が苦手としている。(〜こうであった。)

つまり〜。

そこで〜。

また〜。ところで〜。さて〜。

② Q-Uテストより

Q-Uテストでは, 認められ感の高い生徒 (A群) が〇名, 認められ感の少ない生徒 (B群) が〇名, 学習者同士のかかわりに個別の支援を必要とする生徒 (C群) が〇名, 学習者同士のかかわりに特別に支援を要する生徒 (D群) が〇名であった。授業時は課題解決のために自力解決を意欲的に取り組もうとしている生徒の〇名を中心に, 対話を深めようと努力する生徒とGWを進める。D群の生徒へのかかわりはA群の一部, 及びB群であるが, 〇〇科の学習には自信を持っていたり, 興味関心が高い生徒がかかわりを深めようとしたりする。(Q-U分析が間に合っていない場合は, 授業者の見立てをもとに主観的に記述する。)

【述べ方のポイント】 侵害行為認知群, 非承認群, 学級生活不満足群, 要支援群の生徒が授業においてどのような実態かを述べる。それぞれどのような手立てを仕組むことで不安要素の軽減となるかを述べる。

③ ふだんの学習活動より

PW, GW, CWがどのような状況かを述べる。

【述べ方のポイント】

- * 単元に対する生徒の興味関心度を生徒の実態をふまえて主観的に記述する。
- * ALにあたり、生徒のコミュニケーションスキルをQ-Uテスト等の分析を活用しどのような実態かを記述する。これまでの授業を通してどのような手立てを個に応じて仕組み, コミュニケーションスキルを身に付けさせているかを記述する。
- * 主として, 主語は学習者で, 〜に興味をもっている, 〜への興味関心が高い, 〜を得意としている生徒が多い (いる), 〜に対する苦手意識がある, 〜の活動に入ると〜な生徒がいる。等の文末表現となる。

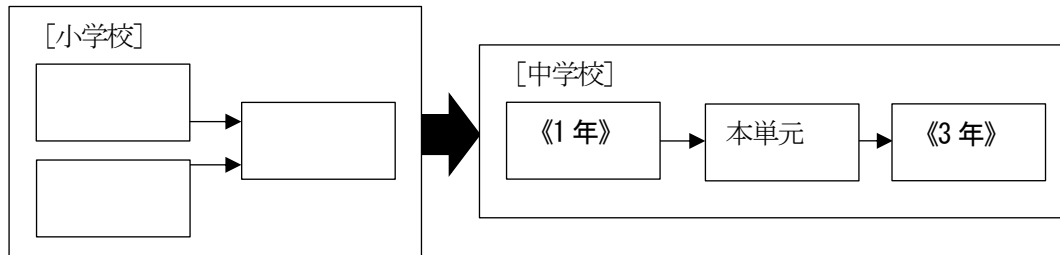
(2) 教材観

本単元では, 中学校学習指導要領〇〇〇をねらいとしている。内容では△△□□とある。△〇△□□〇△〇△□□□・・・。

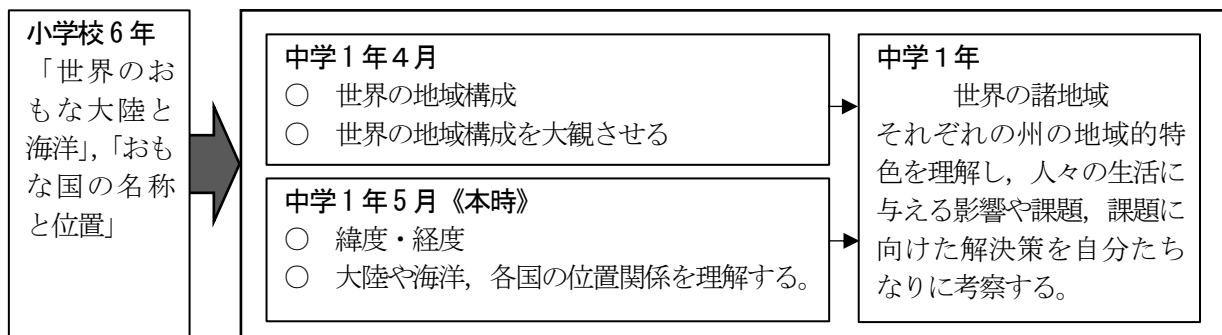
【述べ方のポイント】

- * 単元の意義（選定理由）や単元におけるねらいを明確にする。
- * 単元に対する考え方や単元で主に扱う教材の価値を述べる。
- * 教材を学習することにより期待される効果、指導仮説（教師の思い）を記述する。
「〇〇を学習することにより、××（期待する児童生徒の姿）になる。」
- * 取り上げる単元の内容、既習事項との関連性、今後の展開（系統性）、その単元を取り上げる意義、単元・教材と生徒の関係性などを記述する。
- * ～に適した教材である。～対話的活動を通して～を考えさせることができる教材と言える。
～を考えさ、～に身に付けることができる教材である。
- * 主として、無定義主語で、～の学習である、～となっている、～とされている、～という価値がある、～をねらいとしている、等の文末表現でまとめる。

【系統図】 系統図は、縦図、横図のどちらでも構わない。



タイプA



(3) 指導観

本単元の学習は、□△○*□のために〇〇の学習活動を通して〇〇の力（能力）を身に付けさせる。

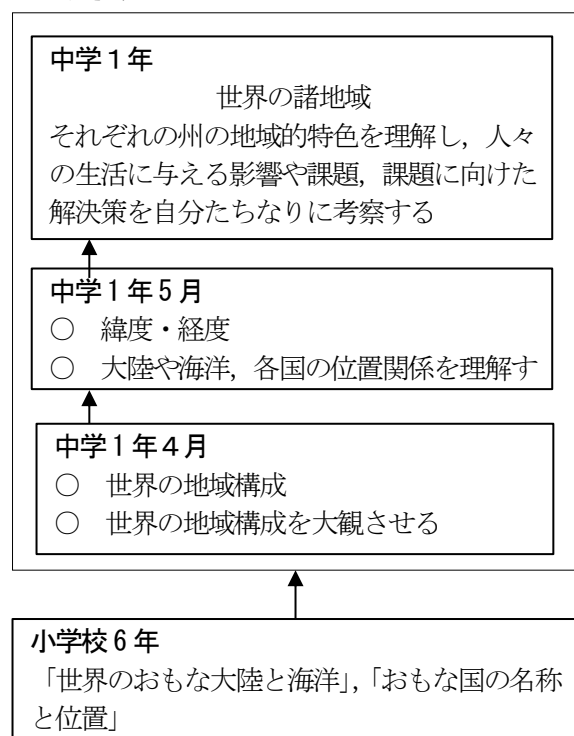
例) 南アメリカについて、クラスの全員がプレゼンテーションするために、資料から読み取り、まとめる活動を通して説明する力、要約するする力を身に付けさせる。

そこで指導にあたっては、〇〇の活動を充実させ、～多く取り入れ、設定し、〇〇を調べることで〇〇を理解させたい。

また、△○△□□○△○については、△○△□□○△○を取り上げながら、△○△□、その際、△○△□をとらえさせる。〇〇の間いでは○△□に気付かせたい。そのために△○△を取り入れ、□□○△○する。

さらには△○△□の作業（捜査活動）を通して○△□に気付かせながら、○△□を考察させたい。

タイプB



【述べ方のポイント】

- * 生徒の実態を踏まえ、本単元を通してどのような手立てを仕組みどのような力を身に付けさせたいかを記述する。
- * 生徒の良さや可能性を生かすような工夫や手立てについて記述する。
- * 具体的な指導形態について記述する。
- * 研究テーマ等にどのようなアプローチしているかを記述する。
- * 小学校よりどのような系統で学習してきたか、レディネステストや本単元の学習につながる既習内容の状況など定着度等を述べる。学習集団に関しては、PW、GW、CWの実態（見とり）、及び実態を通してどのように手立てを仕組み育てたいかを述べる。
- * 主として、主語は指導者である。～させたい、～させる、～指導する、～支援する、～つけさせたい、～資料を活用させ、机間指導を通して個別に～したい、BやCの生徒には課題解決に〇〇のヒントを与えるとともに、〇〇して個別指導したい。
- * 最後にアクティブ・ラーニングによるアプローチとしてワークシートの工夫やPW、GW、CWにおける教師の手立て等を述べる。

3 単元の目標

- 本単元を通して生徒に対する育てたい力
- 本単元を通して理解させたい内容
- 本単元を通して考えさせたい内容
- 本単元をとおして気づかせたい内容

* 文末表現は、～しようとする、～できるようになる、～について考えることができるようになる、等で生徒の立場で記述する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
○ ～としたりすることができる。	○ ～することができる。 ○	○ ～理解している。

5 単元の指導過程（全10時間 本時2/11）

段階	時間	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1次	1	めあて:～を立案し、学習計画を確認できる！学習内容を説明できる！ 【①南アメリカの多様な自然環境】 [* 【】は教科書の小単元名（見開き単元名可）を記載]		
		① 学習計画を立てる。～確認する。～知る。 ② めあてを設定することができる。めあてを説明することができる。 ③ 例) 南アメリカ州の自然について、雨温図や写真・統計から読み取る。	○ △○△□△○△□△○△□△○△□。 ○ △○△□△○△□△○△□△○△□。 ○ 例) 南アメリカ州における赤道の位置を確認させる。そして資料をもとに、緯度や標高の高さによって気候が異なることに着目させる。	【技】 例) 南アメリカの多様な自然環境について、大きな川や山脈の位置に関連させて読み取る。(ワークシート・観察)
本時	2	めあて:～を説明できる！ 【②南アメリカの歴史と文化】		
		③ 単元計画表を完成させる。 ④ 例) 南アメリカ州の歴史と文化について、資料をもとに考察し、気づいたことをまとめる。	○ ○ 南アメリカの国々が、ヨーロッパやアフリカとの文化と深いつながりがあることに気づかせる。	【知】 例) 資料をもとに、南アメリカの国々の言語や人種・民族構成の特徴を読み取る。(ワークシート・観

				察)
2 次	3	めあて:~の説明するための資料をまとめることができる!		
		⑤		【思】【関】例) 環境問題に対して主体的に探求し, 進んで考えながら, 自分の言葉でまとめ, 主張できる。(ワークシート・発表・観察)
	4	めあて:~の説明をするために自他の意見を 200 字にまとめることができる!		
		⑥		
	5	めあて:~説明できる!		
6		⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
3 次	7	めあて:~説明できる!		
		⑪		
	8	めあて:~説明できる!		
	9	めあて:~説明できる!		
4 次	10	めあて:~について仲間と役割分担をして説明できる!		
	11	めあて:単元まとめシートを完成させ, 単元の説明ができる!		

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- □△○△□する。
- □△○△□している。
- 例) 様々な資料から事実を読み取り, 「なぜアマゾンの森林は減少しているのか」という問いに対して, 事実に基づき帰納的に説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- ~することができる。
- ~を考慮することができる。
- ~の説明ができる。
- 例) 資料を基に, アマゾンの森林破壊の原因を読み取り, 説明することができる。

* T T授業であっても指導上の留意点欄を区別する必要はない。なぜなら, ワーク (PW, GW, CW) において対話を重視する授業がALであるため, 指導者は個, Gに応じて臨機応変に対応しなければならない。さらに「深い学び」と判断される場面にはT 1, T 2が同時に対応しなければならない場合も想定できるからである。そのために, 例には, 学習者に対する支援, 指導のあり方を記述するようにしている。仮に, 「つかむ (導入)」段階で, T 1の指導が明確であれば, 「○T 1による◇△○の指示の間, T 2は○○◇*○をする。」と記述すること。

* ペアワークは, GW (グループワーク) とする。

(3) 本時の展開

PW (パーソナルワーク), GW (グループワーク), CW (クラスワーク)

	学習活動と学習形態	指導上の留意点	教材等
つ	CW [3分]		ワークシート

か む	本時のめあて：〇〇について〇〇を活用して説明できる！		D教科書
考 え る ／ 深 め る	<p>① [参考例] 司会, タイムキーパーの確認後, 前時の学習内容の復習をする。</p> <p>○ ~について簡単に振り返る。</p> <p>② 一人一人の生徒が何をめあてに活動すればよいのかをつかめるように具体的に記述する。</p> <p>③ ~を確認する。~を知る。</p> <p>④ [参考例] 資料からブラジルの経済や自然, 暮らしの特色を読み取る。 〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年, 工業出荷額が増えている。 ・ コーヒー豆やサトウキビが主要農作物だ ・ 鉄鉱石などの資源がとれるなど 	<p>○ [参考例] 電子黒板でスライドを提示し簡単に振り返らせ, (どう) ~する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板で~の画像を提示し, (どう) ~する。 <p>○ 一人一人の生徒が何をめあてに活動すればよいのかをつかめるような具体的な発問(問い)や働きかけを記す。</p> <p>○ △○をする生徒に対しては□□を△△することで◇◇を促す。~の助言をする。</p> <p>○ [参考例] 机間指導をしながら「尋ね方」の支援をする。 《自力解決への支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考える手がかりとなる図版や文書資料に注目するよう声かけをする。 ・ 用語の意味や内容については, デジタル教科書や資料集で調べるように指導する。 ・ 学習が進んでいない生徒, 自分からかわることを苦手とする生徒には, 個に応じて生徒同士をつなげ学級内の帰属意識を持たせる。または, 個に応じて分からないことの尋ね方, 教え方を指導する。 ・ 学習進度に応じて A 問題と B 問題への取り組みを指示する。 	教師用指導書 D資料
PW/GW [30分]			
CW [3分]			
	<p>⑤ ~グループワークを進める。</p> <p>⑥ ~グループワークで意見交換をする。</p> <p>⑦</p> <p>⑧</p> <p>⑨ アマゾン川流域の森林を保護するための取り組みを話し合う。 〈予想される対話〉</p> <p>○ これ以上森林を伐採して道路をつくらないようにする。</p> <p>○ 不法に森林伐採したものを取り締まる</p> <p>○ コーヒー豆, サトウキビなど各種農場の大きさを国が規制する。</p> <p>〈予想される深い学び〉</p> <p>○</p>	<p>○ ~の考えを引き出すために〇〇のヒントを与える。</p> <p>○ 生徒一人一人の学習進度に応じた手立てを記述する。</p> <p>○ 資料提示の機会や方法を記述する。</p> <p>○ 生徒の可視化を記述する。</p> <p>○ C「努力を要する生徒」への手立ての例を記述する。 《自己肯定感を高める支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良い探究をしている生徒, あるいはかわりをしている生徒を可視化する。 ・ 主体的に活動している生徒は全体に紹介し自己存在感を持たせる。 <p>《ICT 利活用の支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書の効果的な利活用方法を指導する。 ・ デジタル教科書で探究しようとしている生徒には, 個に応じて解説をしたり, 質問を投げかけたりして探究心を高める。 ・ IWB 操作が苦手な生徒には, グループでデジタル教科書を活用している場面に入ることができるよう声かけをしたり, 個別に指導したりする。 <p>○ 役割を決めて話し合いを進めさせる。</p>	

【解説「単元の目標」】

「学習指導要領」「学習指導要領解説～各教科編～」で、単元と関係する目標、内容を確認する。

- ・ 3～4つの評価の観点に分けて記述する。
- ・ 学習者が主体（主語）になる書きぶりになる。

例) 国語科

- 「国語への関心・意欲・態度」→～しようとする。～に関心を持つ。～に気付く。
- 「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」→単元ごとに重点化し、本単元で育成する能力のみ記述する。～する。～できる。
- 「言語についての知識・・・」→～できる、～理解する、～理解している。

例) 社会科

- 「社会的事象への関心・意欲・態度」→～しようとしている。～に関心をもつ。～に気付く。
- 「社会的な思考・判断」→～考える。
- 「資料活用の技能」→～調べることができる。
- 「社会的事項についての知識・理解」→～分かる。～理解している。

【解説「評価規準」】

《参考》評価するためのものさしが必要！

何かを評価する場合には「ものさし」が必要です。

評価規準（のり準）は「ものさしの種類」、評価基準（もと準）は、「ものさしの目盛り」です。

評価規準

たとえば、「パソコンの授業」というのがあったとして、その授業の目標がいくつか決められます。

「キーボードの操作を覚える」「ワープロが使えるようになる」「メールが使えるようになる」等々で、さらに、ワープロの操作は「文字を打ち込む」「カット＆ペーストが使える」「文字飾りができる」「マクロが使える」のように細分化し、いくつもの評価観点を作る、これが「規準」です。

評価基準

これに対し、それぞれの「規準」をどれだけ達成したかを測るのが「基準」です。「文字を打ち込む」というものさし（規準）に対し、それが1分間に50字か、100字か、という「目盛り」を与えるのが「基準」です。

これらの違いを測定する具体的な方法として、ペーパーテスト、観察法（みとり）、ノートなどがあります。「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」…の4（5）観点をAは「十分満足できる」Bは「おおむね満足できる」Cは「努力を要する」と判断します。される。

したがってこの場合、成績は、〇〇の観点からは5、△△の観点からは3、といった調子でつけられます。つまり、観点を与えるものが規準、数字をはじき出すものが基準ということです。

例1) 「鉄棒の練習」を評価

評価規準 ⇒ ・逆上がりができるようになる

評価基準 ⇒ ・補助板を使わずに逆上がりができた

・補助板を使って逆上がりができた

・補助板を使っても逆上がりができなかった

例2) 「パソコンの授業」を評価

評価規準 ⇒ ・文字を打ち込むことができるようになる

・カット＆ペーストが使うことができる

・文字飾りができる

・マクロが使える

評価基準 ⇒ どれだけ達成したかを測るもの

「文字を打ち込む」というものさし（規準）に対し、それが1分間に50字か、100字か、という「目盛り」を与えるのが「基準」です。

〇〇の観点からは5、△△の観点からは3、といった調子でつけられます。

つまり、観点を与えるものが規準、数字をはじき出すものが基準ということです。

もうちょっと！

授業者が「バナナの特徴を理解できる」と授業の目標を設定したとしたら、全員が単位時間の中でバナナの特徴を理解できたかどうかを評価します。ですから、評価の観点は「バナナの特徴を理解できたかどうか」となります。したがって、評価規準は「バナナの特徴を理解できる」となるわけです。

一方、評価基準はその達成レベルであるわけですから、バナナの特徴をどの程度理解しているのかが評価の目安となります。バナナの特徴を10項目挙げることができるのか、バナナの特徴を5項目挙げることができるのか、それとも1つしか挙げることができないのか、の違いとなってバナナの特徴をどの程度理解しているのかを把握します。したがって、バナナの特徴を理解できたかどうかを3段階のレベルで評価する場合には、「バナナの特徴を10項目挙げることができる」をA、「バナナの特徴を5項目挙げることができる」をB、「バナナの特徴を1項目挙げることができる」をCとすることができます。これが評価基準となります。

それでは、バナナの特徴を8項目挙げることのできた子どもはどのように評価するのかということになります。もちろん、3段階でなく、もっと細かな指標を定めて評価することは可能です。しかし、現実的に考えてみてください。1単位時間の中で、30~40人の子どもたちの目標達成度を5段階、8段階という複雑な指標を使って評価できるでしょうか。研究授業として、1年に1回くらいは力を入れて実践することは可能ですが、つまり、現実的ではないということです。